

令和3年春期の県内植木市場における取引動向

愛知県植木センターでは昭和61年から県内3植木市場において、主に地元から出荷される緑化樹木を中心に21品目（一般植木、株・玉物、生垣用樹）の取引量を春期（2月～4月）と秋期（10月～11月）に調査しております。また、平成20年からは近年市場でよく見られる10品目を追加して調査しております。今回は本年春期の取引動向の概要について紹介します。

1 全体取引量（追加樹種を含まず）〔図－1〕

近年の全体取引量は、平成22年以降減少傾向が続き、平成28・29年は増加に転じたものの、翌年から再び減少傾向となり、今期も減少しました。

全体では前年同期（約12.5万本）より約1.0万本減の約11.5万本で、前年同期比は92%となり、用途別では、一般植木は前年同期比110%、株・玉物は96%、生垣用樹は71%で、一般植木がやや持ち直したものの生垣用樹は減少しました。

2 用途別の取引動向（追加樹種を含まず）〔図－1、図－2〕

(1) 一般植木（12品目）

一般植木の取引量は約3.4万本で、前年同期（3.1万本）より約0.3万本増加しました。平成10年代前半は10万本を超える取引量でしたが、20年代後半には4万本程度まで減少し、最近では3万本前後の取引量となっています。

取引量の多い品目は、自然形ではカエデ類が多く、続いてツバキ、キンモクセイ、カシ類で昨年やや増加しましたが、モチノキやモッコクは減少しました。仕立物ではイヌツゲは横ばいでしたが、イヌマキ、クロマツなどが減少して、全体ではかなり下回りました。

(2) 株・玉物（5品目）

株・玉物の取引量は約5.5万本で、前年同期（5.7万本）より約0.2万本減少し、直近の3年間でほぼ半減となりました。

株・玉物は、サツキ、ツツジ類とイヌツゲで大半を占めますが、全体ではほぼ横ばいでした。

(3) 生垣用樹（4品目）

生垣用樹の取引量は約2.6万本で、前年同期（3.7万本）より約1.1万本減少しました。平成10年をピークに減少が続き、今期はピーク時の11%まで減少しました。

取引量の多い品目は、サザンカとイヌマキで、両種で生垣用樹の約79%を占め、今年は特にサザンカが大きく減少し、全体量を押し下げました。

3 調査追加樹種（10品目）を含む調査結果〔図－3、表－1〕

平成20年から、近年市場でよく見られる樹種を、調査対象として追加しました（一般植木ではハナミズキ、シマトネリコなど7種、株・玉物ではドウダンツツジなど3種）。

追加樹種を含めた取引上位10品目に変化はなく、サツキは減少したにもかかわらず1位を保ち、大きく増加したツツジ類が順位を上げました。逆にサザンカやイヌツゲは大きく減少して順位を下げました。

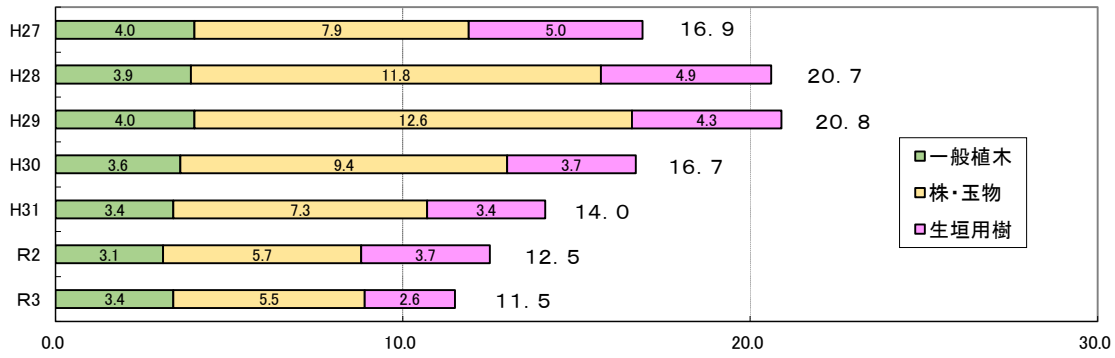
調査市場

農事組合法人 井堀植木生産組合（稲沢市井堀江西町）

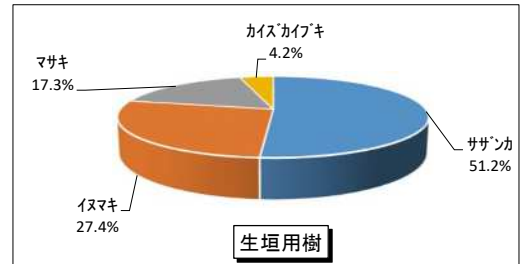
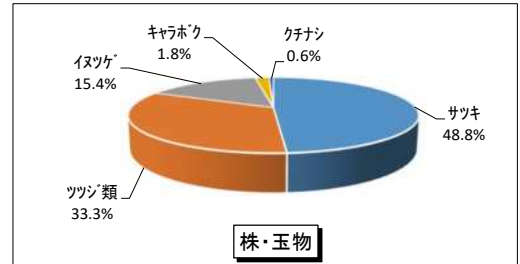
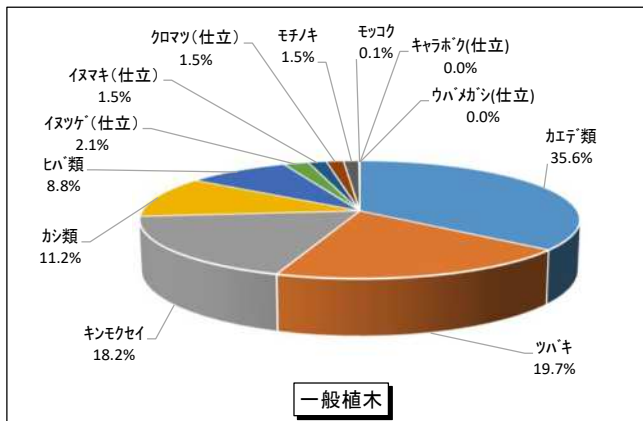
矢合植木市場株式会社（稲沢市矢合町）

福地植木生産組合（西尾市齊藤町）

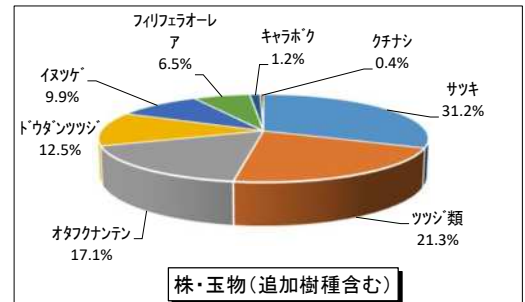
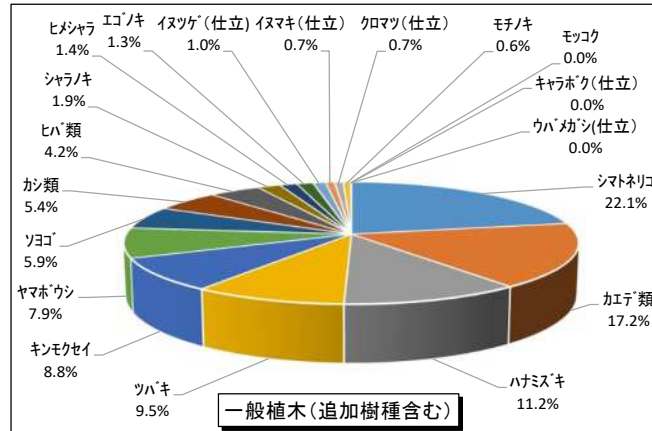
図一 春期取引量の推移（単位：万本）



図二 春期取引量の区分別構成比（%）



図三 春期取引量(追加樹種含む)の区分別構成比（%）



表一 春期取引量上位10品目(追加樹種含む)の動き

順位	平成31年			令和2年			令和3年		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	サツキ	株	↘	サツキ	株	↘	サツキ	株	...
2	オタフクナンテン	株	↗	サザンカ	生	↑	ツツジ類	株	↑
3	イヌツゲ	株	...	シマトネリコ	一	↗	シマトネリコ	一	...
4	サザンカ	生	...	オタフクナンテン	株	↘	オタフクナンテン	株	...
5	ツツジ類	株	...	イヌツゲ	株	...	サザンカ	生	↓
6	シマトネリコ	一	↑	カエデ類	一	...	カエデ類	一	...
7	ドウダンツツジ	株	↑	ドウダンツツジ	株	...	ドウダンツツジ	株	...
8	カエデ類	一	...	ツツジ類	株	↘	イヌツゲ	株	↘
9	イヌマキ	生	...	ハナミズキ	一	...	ハナミズキ	一	...
10	ハナミズキ	一	...	イヌマキ	生	↘	イヌマキ	生	...

・前期比単位 ...:±20%未満 ↗ :+20%以上40%未満 ↘ :-20%以上40%未満
 ↑ :+40%以上 ↓ :-40%以上 - :データなし

・区分 一:一般植木 株:株・玉物 生:生垣用樹